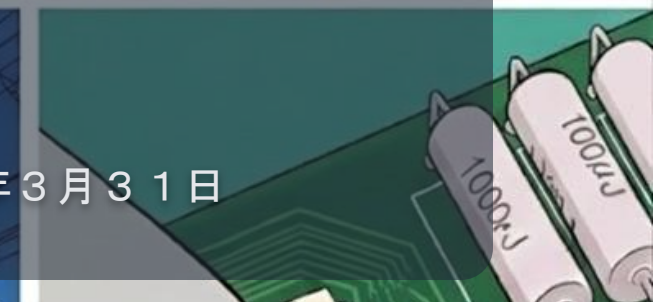
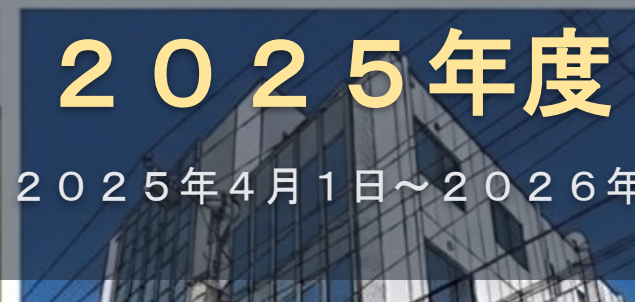
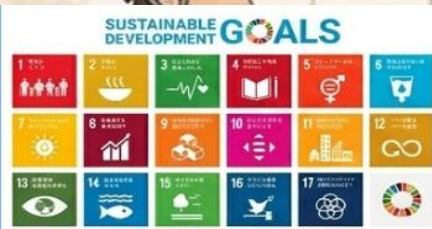




株式会社ヒノックス 環境経営レポート

2025年度

対象期間：2025年4月1日～2026年3月31日



2026年8月3日発行	
承認	作成
社長	管理責任者

環境経営レポート 目次 (PDCA構造)

策定 (Plan)

1. 組織の概要 (P.3)
2. 課題とチャンス (P.4-6)
3. 環境経営方針 (P.7)
4. 環境経営目標 (P.8-13)
 - 基準値設定
 - 単年度、中期目標
 - 環境経営計画

実施 (Do)

5. 取組内容 (P.14-16)
 - CO2排出削減
 - 省エネルギー
 - 廃棄物削減
 - 水使用量削減
 - マテリアルバランス等

確認/評価 (Check)

6. 目標実績 (P.17-19)
7. 取組評価 (P.20-48)
8. 法令遵守 (P.49-50)
 - 法規遵守状況
 - 違反・訴訟の有無

見直し (Act)

9. 代表者評価 (P.51)
10. 公表と活用 (P.52)

組織の概要 会社案内

① 基本情報

事業所名 株式会社ヒノックス

所在地 本社: 東京都八王子市千人町2-12-5
第2工場: 東京都八王子市千人町2-15-5

代表者 代表取締役社長 依田 享

連絡先 TEL: 042-665-3991 / FAX: 042-665-2223
URL: <http://www.hinox.co.jp/>

② 事業規模

年度	2023年度	2024年度	2025年度
売上金額	10億7千9百万	10億7百万	11億3千2百万
従業員数	37名	38名	42名
床面積(本社)	1,606㎡	1,606㎡	1,606㎡
床面積(第二)	661㎡	661㎡	661㎡

③ 事業概要 & レポート情報

【事業内容】 電源機器（産業用スイッチング電源）及び情報システム機器（情報伝送機器・モデム・監視装置等）の開発、設計、製造、販売

【レポート対象期間】 2025/4/1 ~ 2026/3/31

【発行日】 2026/8/3

【認証登録】 2005/5/24 (No.0000404)



2. 経営における課題とチャンス-(内部)

技術

技術要件や開発環境の課題を、次世代機器開発への知見展開やコア技術の内製化、技術者育成の好機とする。(継続)

営業

他部門との連携や廃品化の課題に対し、進捗把握を通じて開発仕様の社内提案を容易にする機会とする。(継続)

総務

漏洩や施工不良のリスクに対し、アクセス制限やコンペ選定で安全に業務移譲と合理化を進める機会とする。(継続)

購買

部品調達難や新規開拓のコスト課題を、部門間連携や業者複数化によるリスク分散と品質確保の機会とする。(継続)

生産管理

生産中止対応やコスト高騰の課題に対し、原価見直しでの価値確保や業務移管による工程調整の機会とする。(継続)

品管

基板の一社依存や品質評価に伴うリスクに対し、他部門と連携したメーカー複数化により分散を図る機会とする。
(継続)

受入

保管地逼迫やデータ不備のリスクに対し、検査データの更新とデジタル化試用で管理体制を高度化する機会とする
(継続)

2. 経営における課題とチャンス-(外部)

技術

製品レベルの顧客要求や測定器生産中止に対し、市場調査や技術蓄積で次世代自社機器を開発する機会とする。
(継続)

営業

市場要求への適合や従来品の生産中止要請に対し、仕様の枠を広げた提案で付加価値を拡充させる機会とする。
(継続)

総務

外部業者の施工不良リスクに対し、複数社見積りやコンペ選定で最適な施工と安全な改装を実現する機会とする。
(継続)

購買

新規開拓におけるお断りや条件不一致に対し、新規業者採用で長期的な品質確保と複数社化を進める機会とする。(継続)

生産管理

生産中止や仕入コスト高騰に対し、毎年の原価見直しや価格転嫁により自社の付加価値を確保する機会とする。(継続)

品管

重要部品の一社依存や近隣業者の不適合に対し、広域な選定によりリスク分散と複数社化を図る機会とする。(継続)

受入

受注変動や生産中止に伴う保管地逼迫に対し、データ把握と安価な機器試用で管理体制を高度化する機会とする。(継続)

外部・内部環境 × 運用・経営管理 マトリクス

全7部門の報告書に基づく、4つの戦略的観点からの課題と展望の俯瞰

戦略的観点: **DX化** **製品・市場** **品質コスト** **連携**

内部環境 (Internal)		外部環境 (External)		
経営・管理	🚨 課題・リスク 連携部門間スケジュールの相互依存と調整負担 DX化業務移譲に伴う機密情報漏洩リスク (対策済)	💡 機会・展望 DX化経理業務移譲や管理規定簡素化による業務効率化 連携生産工程会議の定着による部門間の密な情報共有 品質コスト毎年の原価見直しを通じた適切な付加価値の確保	🚨 課題・リスク 製品・市場市場適合提案に伴う従来品の廃品と顧客調整 品質コスト仕入コストの継続的な高騰への懸念	💡 機会・展望 製品・市場今年度売上目標の超過確実視 (見込10億円超) 連携開発会議での仕様提案、外部工程移管の最適化 連携代替品提案とランク付けによる迅速な情報共有
	運用	🚨 課題・リスク 品質コスト中止品まとめ生産の保管逼迫、新規部品検証の工数増 製品・市場ハード面 (熱対策等) の壁や改版手順調整の負担 DX化デジタル導入の初期コストとデータ更新の人材不足	💡 機会・展望 DX化デジタル活用による業務確実化・在庫リアルタイム把握 品質コスト表面処理変更等のコスト改善、デッドストック縮小 連携実務を通じた技術者・新人の効果的な育成進展	🚨 課題・リスク 品質コスト難入品小ロット調達や近隣メーカーの品質適合難 品質コスト測定器生産中止による内製化・評価ボードの遅延 製品・市場要求仕様高度化による他社とのIP化共同開発中止

3. 環境経営方針

基本理念

当社は、主に情報通信及びパワーエレクトロニクスの分野におけるメーカーとして、業界に信頼されることを目指し、環境経営方針を定めて、全従業員に説明し、掲示し、周知徹底し、継続的な改善を誓約する。

行動指針

1. 事業活動で使用する資源やエネルギー消費量を削減する。
2. 事業活動から排出される二酸化炭素の排出量の削減および廃棄物排出の抑制、再使用、再生利用を推進する。
3. 生物多生物の多様性に及ぼす影響の低減及び持続可能な社会の構築に貢献拡大するために、地球温暖化に係わる事項を把握して温暖化防止に取り組む。
4. 環境に配慮した顧客ニーズの高い製品を開発する。
5. 環境に配慮した物品等の購入、使用を推進する。
6. 環境保全に関連する法規制等の遵守を誓約する。



制定：2012年4月1日
改定：2026年4月1日

4. 環境経営目標-1/6

① 基準値設定(2024年度実績)

※ 印の項目においては、第二工場は非該当です。

項目	単位	基準値（全体）	基準値（本社）	基準値（第二工場）
		（昨年度の実績にて算出）		
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	109,440	89,797	19,643
電力使用量	kWh	239,579	196,642	42,937
ガソリン使用量	ℓ	599	479	120
※オーバーホール受注台数	台数	84	84	非該当
※廃棄物排出量	kg	3,465	3,465	非該当
水使用量	m ³	485	437	48
※コピー用紙購入量	kg	404	404	非該当
※梱包材購入量	台数	1,983	1,983	非該当
※環境対応品購入	円	購入比率85%以上	購入比率85%以上	非該当

4. 環境経営目標-2/6

②-① 単年度、中期目標(全体)

環境目標項目(全体)				2025年度		2026年度		2027年度	
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	前年比	総量	-1%	108,345	-1%	107,262	-1%	106,189
			削減量		▲1094		▲1083		▲1073
電力使用量	kWh	前年比	総量	-1%	237,183	-1%	234,811	-1%	232,463
			削減量		▲2396		▲2372		▲2348
ガソリン使用量	ℓ	前年比	総量	-1%	593	-1%	587	-1%	581
			削減量		▲6		▲6		▲6
オーバーホール	台数	前年比	総量	同等	84	同等	84	同等	84
受注台数			削減量						
廃棄物排出量	kg	前年比	総量	-1%	3,431	-1%	3,396	-1%	3,362
			削減量		▲35		▲34		▲34
水使用量	m ³	前年比	総量	-1%	480	-1%	475	-1%	471
			削減量		▲5		▲5		▲5
コピー用紙購入量	kg	目標値	受注	-1%	400	-1%	396	-1%	392
			目標値		▲4		▲4		▲4
梱包材購入量	kg	前年比	総量	-1%	1,963	-1%	1,943	-1%	1,924
			削減量		▲20		▲20		▲19
環境対応品購入	円	目標値	総額	購入品総額85%以上		購入品総額85%以上		購入品総額85%以上	
化学物質使用量	――			化学物質の適正管理の励行		化学物質の適正管理の励行		化学物質の適正管理の励行	

4. 環境経営目標-3/6

②-② 単年度、中期目標(本社)

環境目標項目(本社)				2025年度		2026年度		2027年度	
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	前年比	総量	-1%	88,899	-1%	88,010	-1%	87,130
			削減量		▲898		▲889		▲880
電力使用量	kWh	前年比	総量	-1%	194,676	-1%	192,729	-1%	190,802
			削減量		▲1966		▲1947		▲1927
ガソリン使用量	ℓ	前年比	総量	-1%	474	-1%	469	-1%	465
			削減量		▲5		▲5		▲5
オーバーホール	台数	前年比	総量	同等	84	同等	84	同等	84
受注台数			削減量						
廃棄物排出量	kg	前年比	総量	-1%	3,431	-1%	3,396	-1%	3,362
			削減量		▲35		▲34		▲34
水使用量	m ³	前年比	総量	-1%	433	-1%	428	-1%	424
			削減量		▲4		▲4		▲4
コピー用紙購入量	kg	目標値	受注	-1%	400	-1%	396	-1%	392
			目標値		▲4		▲4		▲4
梱包材購入量	kg	前年比	総量	-1%	1,963	-1%	1,943	-1%	1,924
			削減量		▲20		▲20		▲19
環境対応品購入	円	目標値	総額	購入品総額85%以上		購入品総額85%以上		購入品総額85%以上	
化学物質使用量	――			化学物質の適正管理の励行		化学物質の適正管理の励行		化学物質の適正管理の励行	

4. 環境経営目標-4/6

②-③ 単年度、中期目標(第二工場)

環境目標項目(第二工場)				2025年度		2026年度		2027年度	
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	前年比	総量	-1%	19,447	-1%	19,252	-1%	19,060
			削減量		▲196		▲194		▲193
電力使用量	kWh	前年比	総量	-1%	42,508	-1%	42,083	-1%	41,662
			削減量		▲429		▲425		▲421
ガソリン使用量	ℓ	前年比	総量	-1%	119	-1%	118	-1%	116
			削減量		▲1		▲1		▲1
オーバーホール	台数	前年比	総量	同等	非該当	同等	非該当	同等	非該当
受注台数			削減量		非該当		非該当		非該当
廃棄物排出量	kg	前年比	総量	-1%	非該当	-1%	非該当	-1%	非該当
			削減量		非該当		非該当		非該当
水使用量	m ³	前年比	総量	-1%	48	-1%	47	-1%	47
			削減量		▲0		▲0		▲0
コピー用紙購入量	kg	目標値	受注	-1%	非該当	-1%	非該当	-1%	非該当
			目標値		非該当		非該当		非該当
梱包材購入量	kg	前年比	総量	-1%	非該当	-1%	非該当	-1%	非該当
			削減量		非該当		非該当		非該当
環境対応品購入	円	目標値	総額	購入品総額85%以上		購入品総額85%以上		購入品総額85%以上	
化学物質使用量	――			非該当		非該当		非該当	

4. 環境経営目標-5/6

③-①環境経営計画・本社

項目	SDGsICON	環境経営計画目標項目	活動内容
1		二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減、ガソリン使用量の削減、廃棄物排出量の削減
2	 	電力使用量の削減	節電の啓発および省エネ(設備の確認)、蛍光灯の間引き、照明器具清掃、エアコン温度設定、空調使用、扇風機、ロールカーテン、ブラインド活用、未使用設備OFF
3		ガソリン使用量の削減	エコドライブ(急発進、急加速、アイドリングストップ)、公共交通機関の優先利用
4		オーバーホール二酸化炭素排出量の削減	製品のオーバーホール営業活動
5	  	廃棄物排出量の削減	経年劣化部品の再使用抑制・推進、廃棄物の分別、再徹底、削減の推進
6		水使用量の削減	蛇口付近に節水の表示(自動水栓)、洗車など使用を控える、トイレ「音消し」活用
7	  	コピー・用紙使用量の削減	両面印刷・コピー推進、ミスコピー防止、裏紙使用、電子化、ペーパーレス化
8	 	梱包材の削減	梱包材の見直し、梱包材の再使用、再生利用、推進
9	 	環境対応部品購入の推進	環境対応部品購入の推進、購入品目数の拡大、コスト把握

4. 環境経営目標-6/6

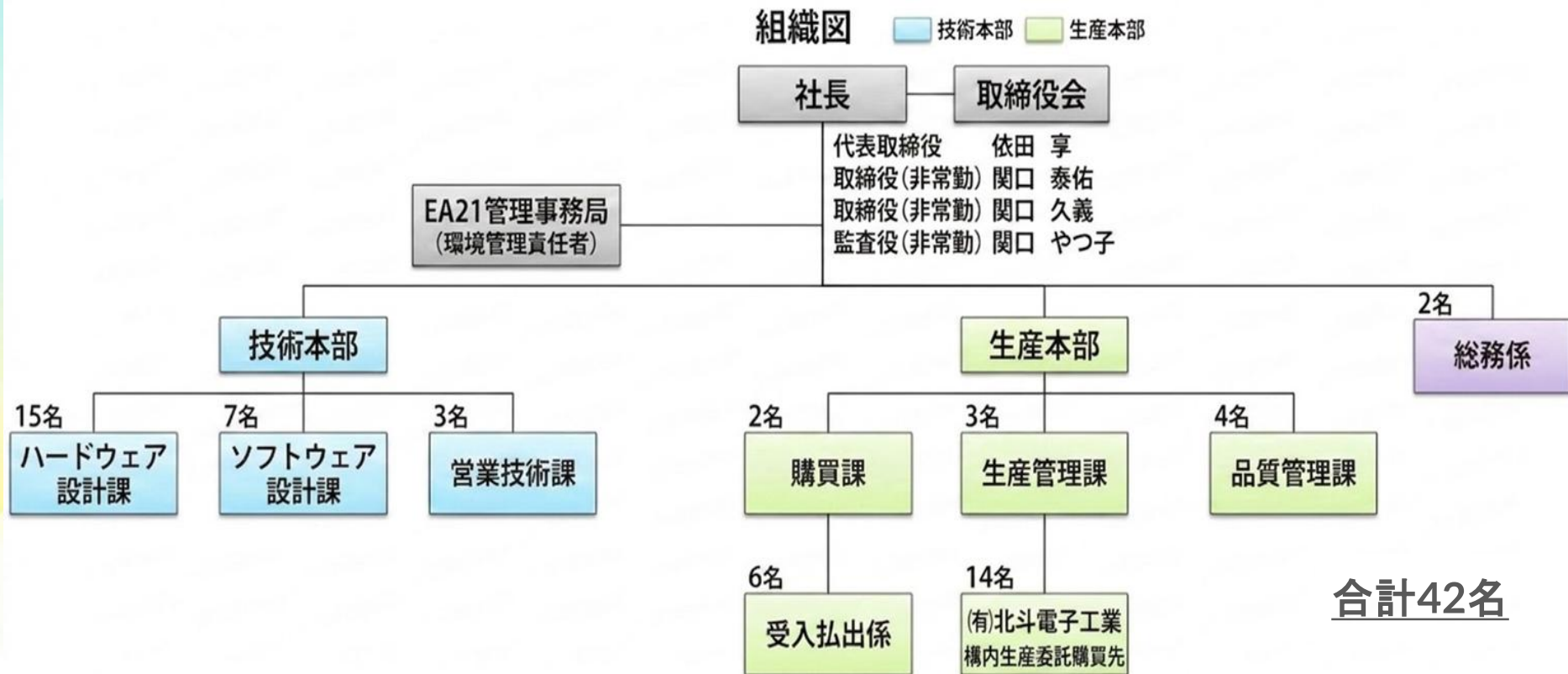
③-②環境経営計画・第二工場

項目	SDGsICON	環境経営計画目標項目	活動内容
1		二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減、ガソリン使用量の削減、廃棄物排出量の削減
2	 	電力使用量の削減	節電の啓発および省エネ(設備の確認)、蛍光灯の間引き、照明器具清掃、エアコン温度設定、空調使用、扇風機、ロールカーテン、ブラインド活用、未使用設備OFF
3		ガソリン使用量の削減	エコドライブ(急発進、急加速、アイドリングストップ)、公共交通機関の優先利用
4		オーバーホール二酸化炭素排出量の削減	非該当
5	  	廃棄物排出量の削減	経年劣化部品の再使用抑制・推進、廃棄物の分別、再徹底、削減の推進
6		水使用量の削減	蛇口付近に節水の表示(自動水栓)、洗車など使用を控える、トイレ「音消し」活用
7	  	コピー・用紙使用量の削減	両面印刷・コピー推進、ミスコピー防止、裏紙使用、電子化、ペーパーレス化
8	 	梱包材の削減	梱包材の見直し、梱包材の再使用、再生利用、推進
9	 	環境対応部品購入の推進	非該当

5. 環境経営計画に基づき実施した取組内容-1/3

1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減、ガソリン使用量の削減、廃棄物排出量の削減	小須田	全員
2	電力使用量の削減	節電の啓発、蛍光灯の間引き、照明器具清掃 エアコン設定温度徹底、未使用設備の電源オフ	紺野	全員
3	ガソリン使用量の削減	エコドライブ(急発進・加速、アイドリングストップ停止)、公共交通機関の優先利用	神戸	使用者
4	オーバーホールCO2削減	製品のオーバーホール営業活動の推進	小須田	営業
5	廃棄物排出量の削減	経年劣化部品の再使用抑制・推進、廃棄物の分別・削減の再徹底	紺野	全員
6	水使用量の削減	節水表示の設置(自動水栓)、洗車自粛、トイレ「音消し」の活用	神戸	全員
7	用紙使用量の削減	両面印刷・コピー推進、ミスコピー防止、裏紙使用、業務の電子化	神戸	全員
8	梱包材の削減	梱包材の見直し、再使用・再生利用の推進	幡野	全員/品管
9	環境対応部品購入の推進	環境対応部品購入の推進、購入品目数の拡大、コスト把握	神戸	総務

5. 環境経営計画に基づき実施した取組内容-2/3



5. 環境経営計画に基づき実施した取組内容-3/3

氏名	所属	役割
依田享	代表取締役社長	課題とチャンスの明確化、環境方針の設定、全体の評価と見直し等
小須田竜哉	営業課	環境緊急事態対応責任者（緊急時の窓口）
紺野陽一郎	生産管理課	環境管理責任者、全体の把握、構築、運用、社長に報告
紺野陽一郎	生産管理課	特別管理産業廃棄物管理責任者
神戸祐子	総務係	防火管理者、環境負荷削減責任者、環境対応品購入の推進
全員	各部門	環境経営方針、計画の理解と実施

6. 環境経営目標の実績- 1/3 (全社)

環境目標項目（全体）			2025年度目標値		2025年度		評価
					実績値		
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	総量	108,345		120,482		×
		削減量(率)	1,094	-1%	12,136	11%	
電力使用量	kWh	総量	237,183		262,953		×
		削減量(率)	2,396	-1%	25,770	11%	
ガソリン使用量	ℓ	総量	593		815		×
		削減量(率)	6	-1%	222	37%	
オーバーホール	台数	総量	84		112		○
		削減量(率)	同等		28	33%	
廃棄物排出量	kg	総量	3,431		3,412		○
		削減量(率)	35	-1%	▲ 19	-1%	
水使用量	m ³	総量	480		668		×
		削減量(率)	5	-1%	188	39%	
コピー用紙購入量	kg	総量	400		344		○
		削減量(率)	4	-1%	▲ 56	-14%	
梱包材購入量	kg	総量	1,963		1,728		○
		削減量(率)	20	-1%	▲ 235	-12%	
環境対応品購入	円	G購入額			217,299		○
		購入品総額	購入比率85%以上		248,593	87%	
化学物質使用量	化学物質の適正管理の励行						○

【全社】資源循環は高評価、エネルギー対策が急務

- **強み:** 廃棄物削減、資源（紙・梱包材）の適正利用、および製品オーバーホール事業が目標を達成し、循環型経済への対応力という明確な強みを示しています。
- **課題:** 夏季の記録的な猛暑により7～9月の空調稼働率が大幅に増加。生産稼働日数の増加に伴い、と電力・ガソリンを中心としたエネルギー消費量とCO2排出量が未達成となりました。
- **次期方針:** 資源循環の好調を維持しつつ、空調設備の最適化や営業車の運用見直しなど、抜本的なエネルギーマネジメントへの着手が重要です。

* 二酸化炭素の排出係数 2025年度

東京電力の調整後排出係数 = 0.451(kg-CO₂/kWh)

* 環境対応品購入の実績 ※環境対応品購入比率(%)=グリーン購入額(¥)／購入品総額(¥)

* 評価=○ 目標達成 (5%以内) / 評価=△ まずまず (6%～10%) / 評価=×未達成 (10%以上)

6. 環境経営目標の実績- 2/3 (本社)

環境目標項目（本社）			2025年度目標値			2025年度		評価
						実績値		
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	総量	88,899		99,725		×	
		削減量(率)	898	-1%	10,827	12%		
電力使用量	kWh	総量	194,676		217,768		×	
		削減量(率)	1,966	-1%	23,092	12%		
ガソリン使用量	ℓ	総量	474		652		×	
		削減量(率)	5	-1%	178	37%		
オーバーホール	台数	総量	84		112		○	
		削減量(率)	同等		28	33%		
廃棄物排出量	kg	総量	3,431		3,412		○	
		削減量(率)	35	-1%	▲ 19	-1%		
水使用量	m ³	総量	433		630		×	
		削減量(率)	4	-1%	197	46%		
コピー用紙購入量	kg	総量	400		344		○	
		削減量(率)	4	-1%	▲ 56	-14%		
梱包材購入量	kg	総量	1,963		1,728		○	
		削減量(率)	20	-1%	▲ 235	-12%		
環境対応品購入	円	G購入額				217,299	○	
		購入品総額	購入比率85%以上			248,593		87%
化学物質使用量	化学物質の適正管理の励行						○	

【本社】環境貢献事業を牽引、インフラ管理に課題

- **強み:** オーバーホール受注（目標比133%）を力強く牽引し、サプライチェーン全体のCO2削減に大きく貢献しました。オフィス由来の廃棄物・資源削減も優秀です。
- **課題:** 全体の電力（+12%）・ガソリン（+37%）・水使用量を押し上げる主要因となっています。
- **次期方針:** 空調温度の厳格な運用、営業車のエコドライブや移動ルート効率化、水まわりの設備点検（漏水確認等）によるロス削減が求められます。

* 二酸化炭素の排出係数 2025年度

東京電力の調整後排出係数 = 0.451(kg-CO₂/kWh)

* 環境対応品購入の実績 ※環境対応品購入比率(%)=グリーン購入額(¥)／購入品総額(¥)

* 評価=○ 目標達成（5%以内） / 評価=△ まずまず（6%～10%）
/ 評価=×未達成（10%以上）

6. 環境経営目標の実績- 3/3 (第二工場)

環境目標項目（第二工場）			2025年度目標値		2025年度		評価
					実績値		
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	総量	19,447		20,756		△
		削減量(率)	196	-1%	1,310	7%	
電力使用量	kWh	総量	42,508		45,185		△
		削減量(率)	429	-1%	2,677	6%	
ガソリン使用量	ℓ	総量	119		163		×
		削減量(率)	1	-1%	44	37%	
オーバーホール	台数	総量	非該当		—		—
		削減量(率)	非該当		—	—	
廃棄物排出量	kg	総量	非該当		—		—
		削減量(率)	—	—	—	—	
水使用量	m ³	総量	48		38		○
		削減量(率)	0	-1%	▲ 10	-20%	
コピー用紙購入量	kg	総量	非該当		—		—
		削減量(率)	—	—	—	—	
梱包材購入量	kg	総量	非該当		—		—
		削減量(率)	—	—	—	—	
環境対応品購入	円	G購入額	非該当		—		—
		購入品総額			—	—	
化学物質使用量	非該当						—

【第二工場】現場の節水は達成、製造設備の最適化へ

- **強み:** 現場主導のルール徹底により水使用量の目標を見事達成。電力・CO2の超過幅を本社より低く抑え込みました。
- **課題:** 電力 (+6%) およびガソリン (+37%) は未達成となりました。
- **次期方針:** 季節設備の未使用時OFFのさらなる徹底、および拠点間の資材運搬・移動の効率化による改善が必要です。

* 二酸化炭素の排出係数 2025年度

東京電力の調整後排出係数 = 0.451(kg-CO₂/kWh)

* 環境対応品購入の実績 ※環境対応品購入比率(%)=グリーン購入額(¥)／購入品総額(¥)

* 評価=○ 目標達成 (5%以内) / 評価=△ まずまず (6%~10%) / 評価=×未達成 (10%以上)

7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度取組内容-1/29

①-① エネルギー使用量の削減

エネルギー使用量の推移 (2023-2025年度)

電力使用量の推移
(本社・第二工場)

[kWh]



※太陽光発電量は含みません

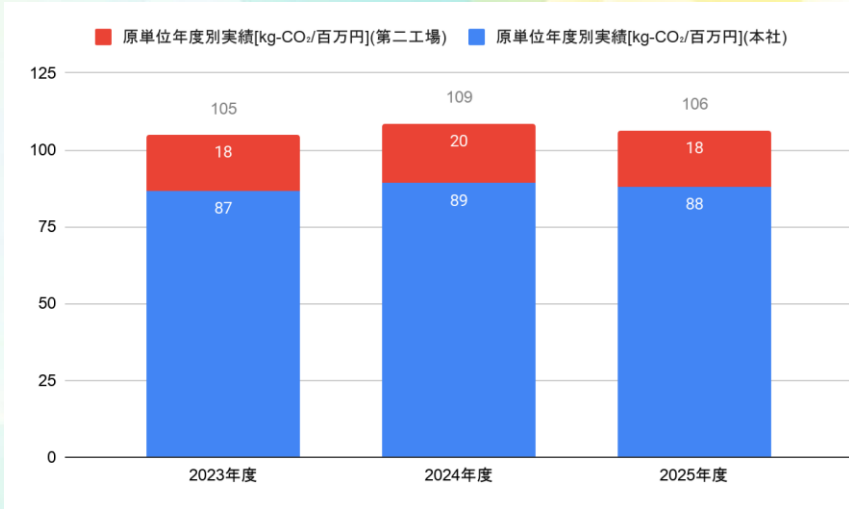
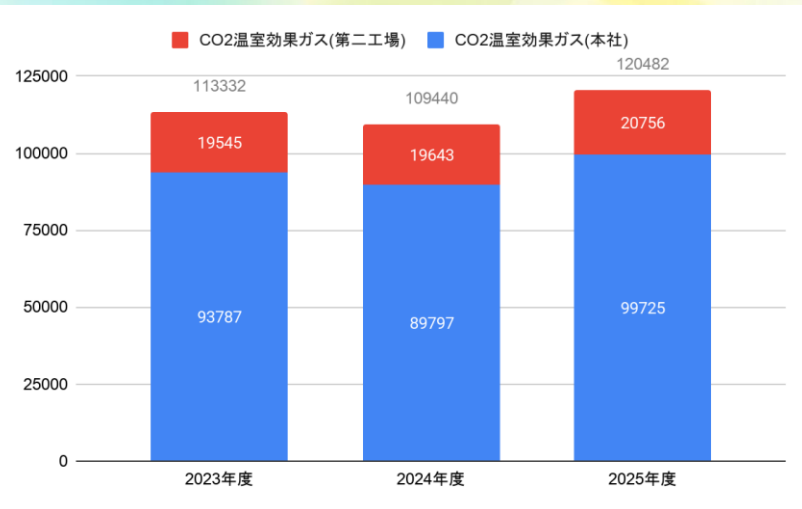
ガソリン使用量の推移
(本社・第二工場)

[L]



7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度取組内容-2/29

①-②二酸化炭素排出量の削減



取組結果とその評価

環境目標項目（全体）			2025年度目標値		2025年度		
					実績値		評価
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	総量	108,345		120,482		×
		削減量(率)	1,094	-1%	12,136	11%	

次年度の取組内容

引き続き必要なエネルギーを除き使用を控えて削減致します。

7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度の取組内容-3/29



②-①省エネルギー

電力使用量 (本社)

- 01節電の啓発
- 02蛍光灯のプルスイッチによる間引き
- 03エアコンの設定 (冷房 28℃ 暖房 20℃)
- 04扇風機、ロールカーテン、ブラインドの活用
- 05事業活動において使用する設備 (未使用時オフ)
- 06設備の電力使用確認

本社における省エネ取組の様子



エアコンの設定 (冷房 28℃ 暖房 20℃)
上記設定を基準に調整お願い致します。



私たちは、持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

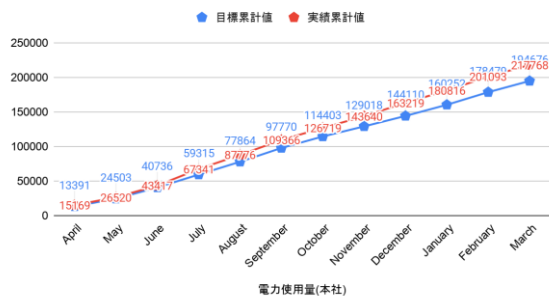
製造設備 (年間使用量)	電力使用量	単位	季節設備(年間使用量)	電力使用量	単位
リフロー	24,316	[kWh]	加湿器	9830	[kWh]
はんだ槽	2,439	[kWh]	エアコン	41172	[kWh]
除湿器	35,522	[kWh]			
コンプレッサー	5,793	[kWh]	年間総使用量(製造+季節設備)	119071	[kWh]

7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度の取組内容-4/29

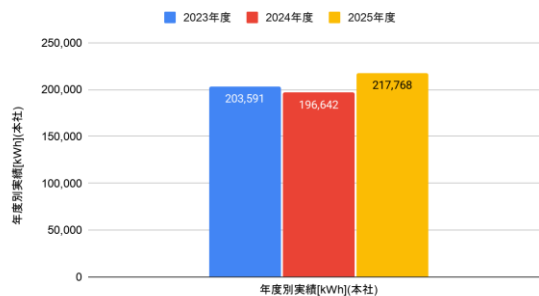


②-②省エネルギー

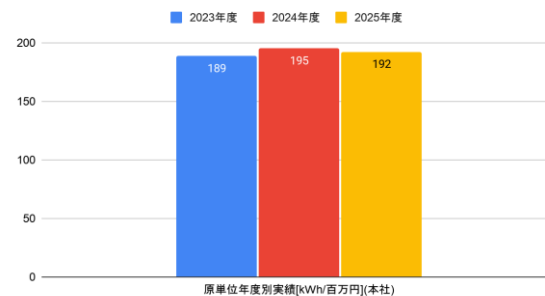
電力使用量[kWh](本社)



年度別実績[kWh](本社)



原単位年度別実績[kWh/百万円](本社)



取組結果とその評価

環境目標項目（本社）			2025年度目標値		2025年度		
					実績値		評価
電力使用量	kWh	総量	194,676		217,768		×
		削減量(率)	1,966	-1%	23,092	12%	

次年度の取組内容

引続き各設備の電力使用量の確認、見直しを行い無駄な使用エネルギーを削減いたします。

7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度取組内容-5/29



②-③省エネルギー

電力使用量 (第二工場)

- 01節電の啓発
- 02LED灯のプルスイッチによる間引き
- 03エアコンの設定 (冷房 28℃ 暖房 20℃)
- 04扇風機、アコーディオンカーテン、ブラインドの活用
- 05事業活動において使用する設備 (未使用時オフ)
- 06設備の電力使用確認



Phase 1: 設備運用・空調の最適化 (HVAC & Facility)

- ・エアコンの温度設定徹底 (冷房 28℃ / 暖房 20℃)
- ・扇風機、ロールカーテン、ブラインドの活用と未使用設備の電源OFF。



Phase 2: 照明・電力の間引き (Lighting & Power)

- ・蛍光灯のプルスイッチによる間引き、照明器具清掃による照度効率の向上。

第二工場における省エネ取組の様子

節電のご協力をお願い致します。



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



エアコンの設定 (冷房 28℃ 暖房 20℃)

上記設定を基準に調整お願い致します。



私たちは、持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

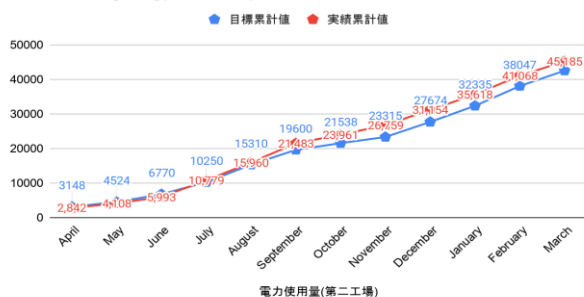


7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度の取組内容-6/29

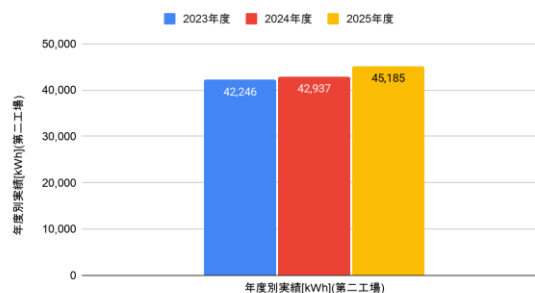


②-④省エネルギー

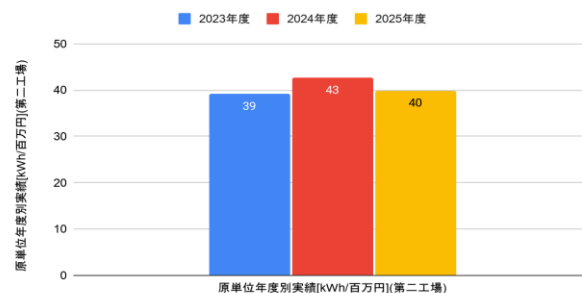
電力使用量[kWh](第二工場)



年度別実績[kWh](第二工場)



原単位年度別実績[kWh/百万円](第二工場)



取組結果とその評価

環境目標項目（第二工場）			2025年度目標値		2025年度		
					実績値		評価
電力使用量	kWh	総量	42,508		45,185		△
		削減量(率)	429	-1%	2,677	6%	

次年度の取組内容

引続き各設備の電力使用量の確認、見直しを行い無駄な使用エネルギーを削減いたします。

7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度の取組内容-7/29



1. エコドライブ

急発進、急加速を抑え、アイドリングストップを徹底し
環境負荷を低減します。



2. 公共交通機関の優先利用

用途や移動ルートに合わせて、最適な公共交通機関を優
先的に選択・利用します。



Phase 3: モビリティのシフト (Mobility Shift)

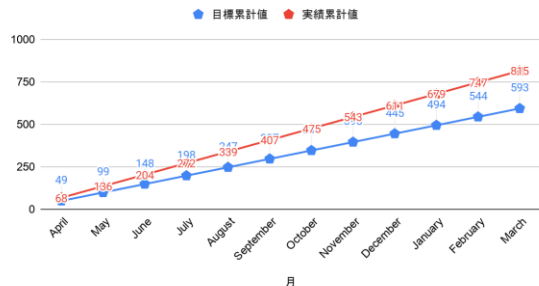
- ・ 営業車の運用見直し。エコドライブ(急発進・急加速防止、アイドリングストップ)の徹底。
- ・ 公共交通機関の優先利用によるガソリン使用量削減。

7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度の取組内容-8/29

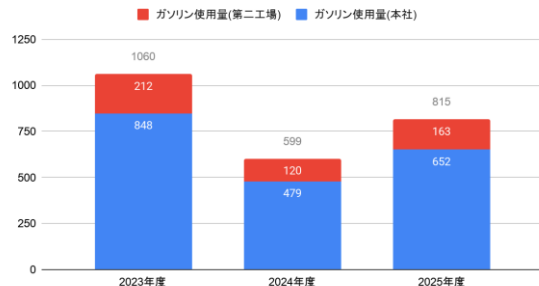


②-⑤省エネルギー

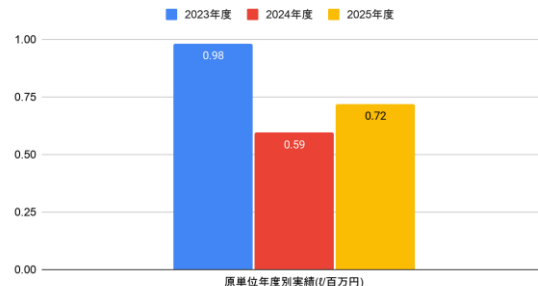
ガソリン使用量[l] (本社・第二工場)



ガソリン使用量[l] (本社・第二工場)



原単位年度別実績(l/百万円)



取組結果とその評価

環境目標項目（全体）			2025年度目標値		2025年度		
					実績値		評価
ガソリン使用量	ℓ	総量	593		815		×
		削減量(率)	6	-1%	222	37%	

次年度の取組内容

引き続き用途に合わせて公共交通機関の優先利用とエコドライブを推進いたします。

7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度の取組内容-9/29

84台 → 実績 **112台**

12 つくも責任
つかう責任



(達成率 133%)



これは単なる「修理」ではなく、本業を通じた直接的な環境貢献（スコープ3削減への寄与）です。
目標を大きく上回る112台の受注は、ヒノックスの「技能」と「環境」の融合が顧客から高く評価されている証証です。

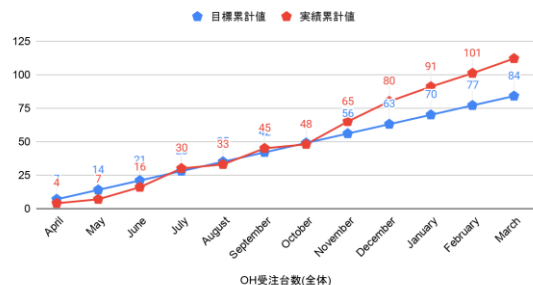
7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度取組内容-10/29

12 つくる責任
つかう責任

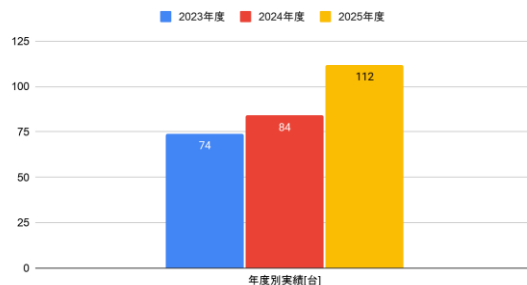


②-⑥省エネルギー

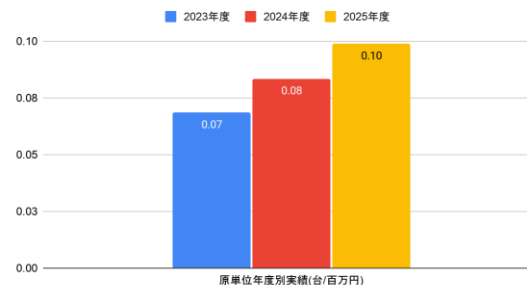
オーバーホール受注台数[台]全社



年度別実績[台]



原単位年度別実績(台/百万円)



取組結果とその評価

環境目標項目（全体）			2025年度目標値	2025年度		
				実績値		評価
オーバーホール	台数	総量	84	112		○
		削減量(率)	同等	28	33%	

次年度の取組内容

オーバーホールの受注活動や、経年劣化部品を交換して可能な限り再使用する活動を継続いたします。

7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度の取組内容-11/29



③-① 廃棄物排出量の削減



廃棄物排出量の削減

目標値： 実績値：
3,431kg → 3,412kg
→ 削減量：▲19kg
削減率：-1%

ゴミ分別の再徹底、経年劣化部品の
の再使用推進。一般・特管・産
廃のすべてで適正管理が定着。



一般廃棄物 (不燃・可燃ゴミ)



特管産廃



産業廃棄物

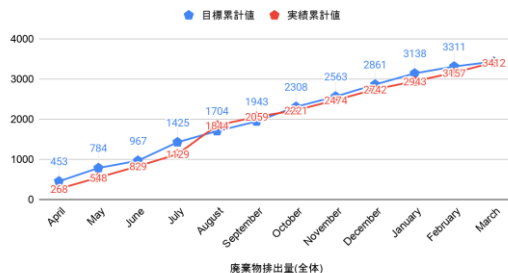


7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度取組内容-12/29

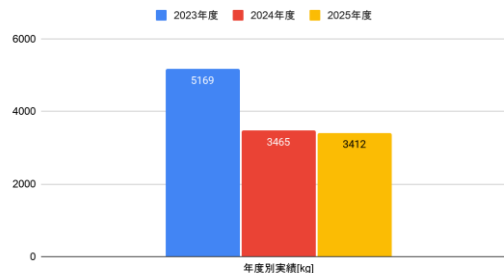


③-② 廃棄物排出量の削減

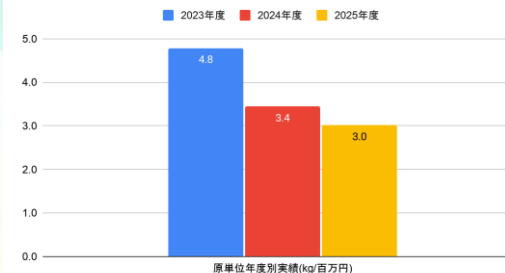
廃棄物排出量[kg] 全社



年度別実績[kg]



原単位年度別実績(kg/百万円)



取組結果とその評価

環境目標項目（全体）			2025年度目標値		2025年度		評価
					実績値		
廃棄物排出量	kg	総量	3,431		3,412		○
		削減量(率)	35	-1%	▲ 19	-1%	

次年度の取組内容

次年度もゴミ分別の徹底、引き続き購入品の廃棄物排出量削減を推進いたします。

7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度の取組内容-13/29

④-①水使用量の削減

水使用量(本社)

- ◆蛇口付近に節水の表示
- ◆生活用水以外は洗車など使用を控える
- ◆加湿器の水にポットの残り水を使用して無駄な水削減

節水のご協力をお願いします。



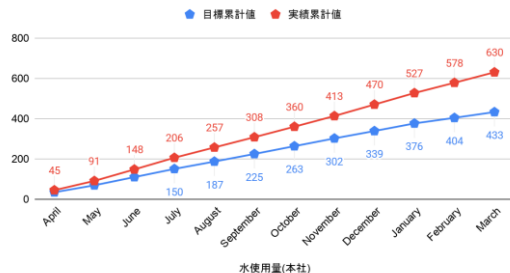
私たちは、持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



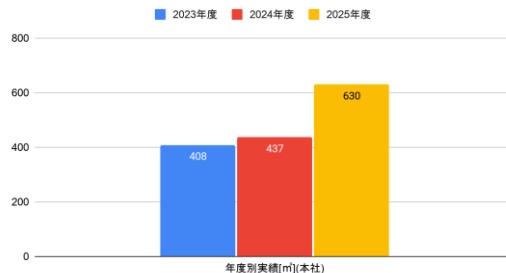
7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度取組内容-14/29

④-②水使用量の削減

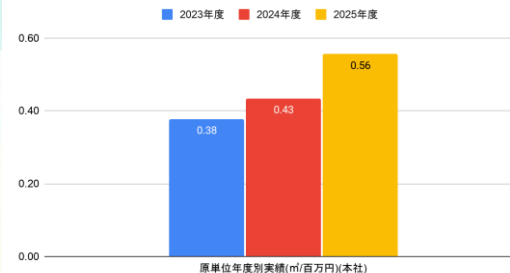
水使用量[m] (本社)



年度別実績[m] (本社)



原単位年度別実績(m³/百万円)(本社)



取組結果とその評価

環境目標項目（本社）			2025年度目標値		2025年度		評価
					実績値		
水使用量	m³	総量	433		630		×
		削減量(率)	4	-1%	197	46%	

次年度取組内容

必要な生活用水以外、トイレの複数回流しなど使用を控えるように推進いたします。

7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度の取組内容-15/29

④-③水使用量の削減

水使用量(第二工場)

- 蛇口付近に節水の表示
- 生活用水以外は洗車など使用を控える

節水のご協力をお願いします。



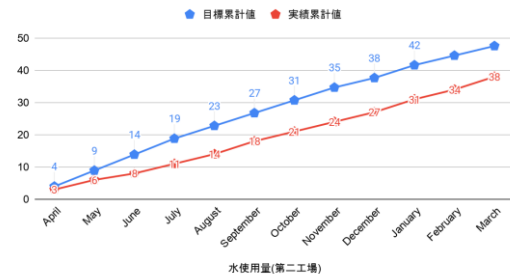
私たちは、持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



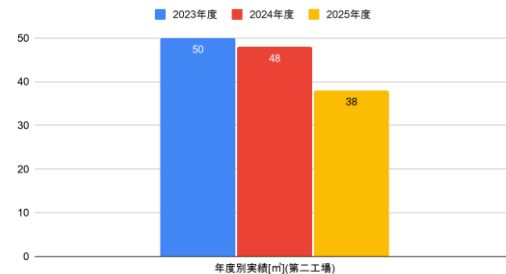
7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度取組内容-16/29

④-④ 水使用量の削減

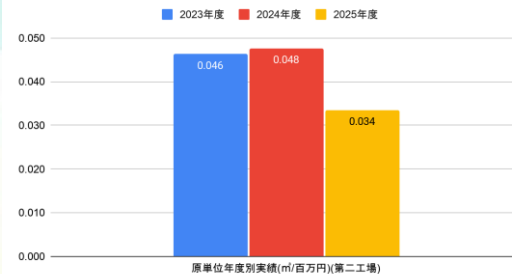
水使用量[m](第二工場)



年度別実績[m](第二工場)



原単位年度別実績[m³/百万円](第二工場)



取組結果とその評価

環境目標項目（第二工場）			2025年度目標値		2025年度			評価
					実績値			
水使用量	m³	総量	48		38		○	
		削減量(率)	0	-1%	▲ 10	-20%		

次年度取組内容

必要な生活用水以外、トイレの複数回流しなど使用を控えるように推進いたします。

7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度の取組内容-17/29



⑤-①コピー用紙購入

本社コピー用紙保管分類設備

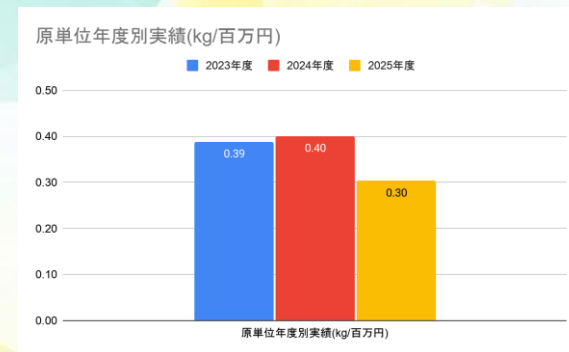
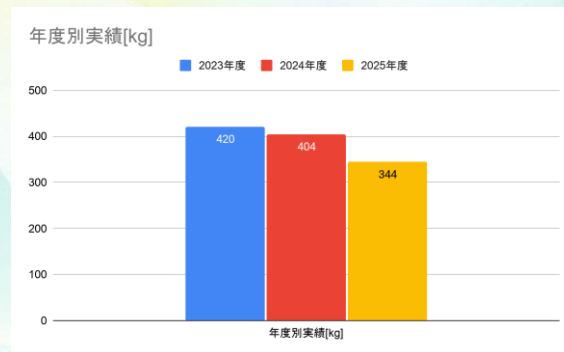
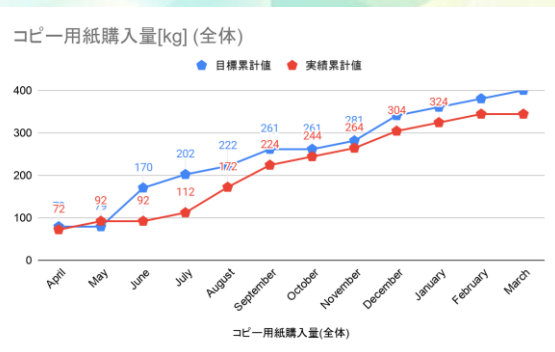
1. 両面印刷、両面コピーの推進
2. 裏紙の使用



7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度取組内容-18/29



⑤-②コピー用紙購入



取組結果とその評価

環境目標項目（全体）			2025年度目標値		2025年度		評価
					実績値		
コピー用紙購入量	kg	総量	400		344		○
		削減量(率)	4	-1%	▲ 56	-14%	

次年度の取組内容

前年度同様に文書の電子化、裏紙の使用と両面印刷、両面コピーの取組を推進いたします。

7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度の取組内容-19/29



⑥-① 梱包材購入量

本社及び第二工場梱包材置場

1. 梱包材の見直し
2. 梱包材の再使用、再生利用の推進

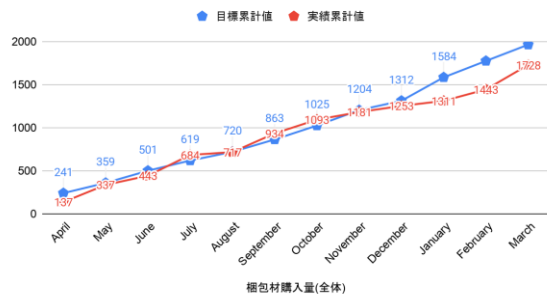


7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度取組内容-20/29

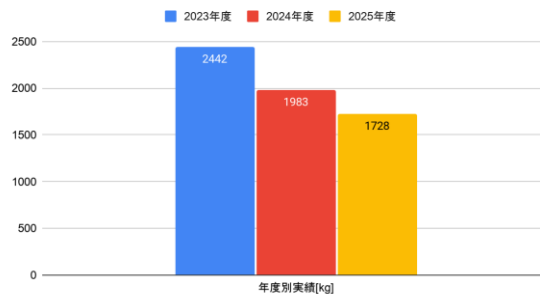


⑥-② 梱包材購入量

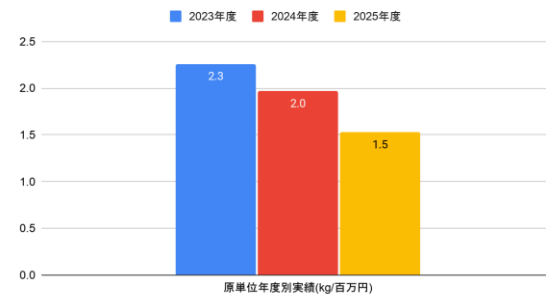
梱包材購入量(全体)



年度別実績[kg]



原単位年度別実績(kg/百万円)



取組結果とその評価

環境目標項目（全体）			2025年度目標値		2025年度		評価
					実績値		
梱包材購入量	kg	総量	1,963		1,728		○
		削減量(率)	20	-1%	▲ 235	-12%	

次年度の取組内容

更に梱包材の見直しや梱包材の再使用、再生利用を推進いたします。

7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度の取組内容-21/29



⑦-① 環境対応品購入



環境対応品購入の推進

- 1. 環境対応品購入の推進
エコマーク 認定品等の積極的な選定
- 2. 購入品目の拡大
事務用品から備品まで対象範囲を広げる
- 3. コスト把握で効果を計る
環境負荷低減とコスト削減の両立を検証



7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度の取組内容-22/29



目標：購入総額の85%以上を環境対応品とする。

本年度も目標値以上の「87.4%」を達成。

評価 [○]

環境対応品購入額:
21万7,299円
(87.4%)



その他購入品:
3万1,294円
(12.6%)

次期アクション: 環境対応品購入品目の更なる拡大と、非対応（除外）品の削減に継続して取り組む。

7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度取組内容-23/29



⑧-① マテリアルバランス

インプット

1. 原材料の適正な増加

電子部品（28.0t）および機構部品（約14.0t）で合計約42tの主資材が投入。生産計画に基づいた適切な調達が行われています。

2. 化学物質のクリーンな管理

希釈剤0kg、洗浄剤140kgと、有害な化学物質への依存度が極めて低く抑えられ、労働環境と環境保全の双方で高く評価されます。

3. 課題となるエネルギー投入

電力（約26.3万kWh）とガソリン（815kg）がINPUT側の最大の焦点。化石燃料由来のエネルギーへの依存が高い状態です。

アウトプット

1. 優れた製品化率（歩留まり）

約42tの投入に対し、36.73tを製品化。廃棄物（約2.9t）を差し引いても、投入資源の大部分が価値ある製品となっています。

「※インプットとアウトプットの差分は、製造中の仕掛品や在庫として社内に適切に保管されています」

2. 資源循環ループの確立

梱包材（段ボール1,728kg）の購入量と排出量が完全に一致。使用分がそのままリサイクル等のフローへ回っています。

3. 最大の環境負荷：CO2の巨大な質量

製品質量（36.73t）に対し、CO2排出量が120tに上ります。製品の約3.3倍の排出量は、マテリアルバランスにおける最大の改善テーマです。

7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価

次年度の取組内容-24/29

2025年度のINPUT			→	2025年度のOUTPUT		
⑧-②マテリアルバランス						
調達材料		単位	受注	製品		単位
電子部品	28,000	[kg]	↓	電子機器製品	36.73	[kg]
機構部品	13,996	[kg]	設計			
			↓	廃棄物		
製造調達			購買	産業廃棄物		
希釈剤	0	[kg]	↓	廃プラ/金属	1,183	[kg]
洗浄剤	140	[kg]	製造			
			↓	一般廃棄物		
紙/梱包材			検査	生ごみ/くずゴミ	1,734	[kg]
コピー用紙	344	[kg]	↓	梱包材(段ボール)	1,728	[kg]
梱包材(段ボール)	1,728	[kg]	事務			
			↓			
エネルギー			梱包			
使用電力	262,953	[kWh]	↓			
ガソリン	815	[kg]	出荷	CO2排出量	120,482	[kg-CO2]
太陽光発電(自家消費)	12,429	[kWh]	↓			
水（上下）	668	[m³]	運搬	排水(生活用水)	668	[m³]

7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度の取組内容-25/29



⑨-① その他の取組



弊社ビル屋上へ設置の太陽光パネルです。

太陽光発電

1. 現在の貢献度：約5.6tのCO2排出を回避
2025年度に発電した12,429kWhは、全社の年間電力使用量（約26.2万kWh）の約4.7%に相当します。これは言い換えれば、東京電力から購入するはずだった電力を自前で賄い、年間約5,600kg-CO2（※排出係数0.451で換算）もの温室効果ガス排出を「発生源から断っている」という素晴らしい成果です。

7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度の取組内容-26/29

⑨-②その他の取組

◇環境情報の揭示



環境方針・環境目標の揭示

環境方針、環境目標を社内に掲示し、周知を行っています。



定期的なグラフ更新

環境目標計測グラフは、集計後に最新データへ貼り換えて掲示しています。

7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度の取組内容-27/29

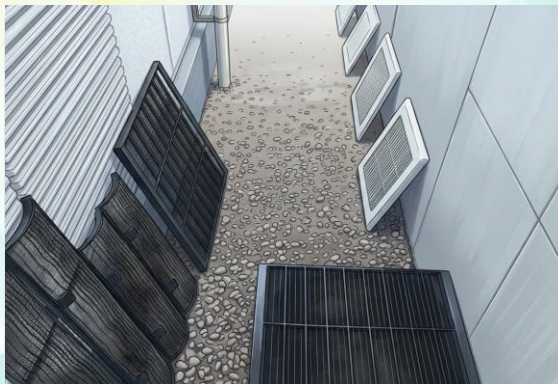
⑨-③ その他の取組

◇地域周辺との環境コミュニケーション活動及び、社内空調設備及び、照明機器のメンテナンス活動。



美化活動

近隣の浅川土手沿いのゴミ拾い、美化活動の取組み。



フィルター清掃

エアコンフィルター清掃作業を実施。



照明メンテナンス

照明器具の交換及びメンテナンス作業。

7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度の取組内容-28/29

⑨-④ その他の取組

◇環境上の緊急事態の訓練



緊急事態に備えて、当建物で消防訓練を実施致しました。

7. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 次年度の取組内容-29/29

⑨-⑤ その他の取組

◇生物の多様性の保全



植樹活動

本社玄関口の植樹を継続実施。



生態系保護

河川の生態系保護活動を継続実施。



多様性の保全

地域に生息する生物の多様性を守る取組。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無-1/2

①-①環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

法令・条約等	要求事項	適用施設・物質等	確認日	担当	遵守状況確認	評価
廃棄物処理法	保管規準		2025年10月20日	特管	掲示板	○
	掲示板：60cm角以上		2025年10月20日	環責	(産廃、特管、保管場所)	
	(種類、氏名、連絡先)					
	飛散等防止		2025年10月20日	環責	飛散等防止	○
	(飛散, 流出, 浸透, 悪臭)				(保管場所)	
	衛生管理	(金属、廃プラスチック)	2025年10月20日	環責	害虫発生防止	○
	(害虫発生防止)				(保管場所)	
	委託契約	特別管理産業廃棄物	2025年10月20日	環責	産廃：委託業者と再契約	○
	産業収集	(IPA<イソフロン<ル>鉛半田)			特管：委託業者と継契約	
	特別産廃収集運搬業者					
	特別管理産業廃棄物管理責任者		2025年10月20日	環責	特別管理産業廃棄物	○
	の設置					
			2025年10月20日	環責	産業廃棄物管理交付等	
	マニュアル交付				状況報告書	○
	知事提出					
	写し保管					

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無-2/2

①-②環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

法令・条約等	要求事項	適用施設・物質等	確認日	担当	遵守状況確認	評価
フロン排出抑制法	業務用エアコンの簡易点検実施	エアコン内外機	2025年10月20日	総務	定期的に点検	○
			2025年10月20日	環責		
東京都環境確保条例	工場設置（知事許可）	工場設置許可証	2025年10月20日	総務	基準遵守	○
	適正管理化学物質	適正管理化学物質の使用量等報告書	2025年10月20日	環責		
東京都火災予防条例	指定数量未満の危険物の貯蔵	IPA(第4類引火性液体)	2025年10月20日	防普	貯蔵所、作業場所で取扱	○
	及び取扱い		2025年10月20日	環責		
	少量危険物貯蔵取扱所の位置				基準遵守	
	構造及び設備					

②違反、訴訟等の有無

当社が適用する環境関連法規制について、環境マニュアルに規定する「環境関連法規制・条例・その他の規制登録表」により2025年4月1日から2026年3月31日までの状況を確認した結果、全社関係当局から違反等の指摘は有りませんでした。

9. 代表者による全体評価と見直し・指示

全体評価

「資源循環の良き企業文化の定着と、次なるエネルギー課題の顕在化」

特に評価すべきは、お客様の製品寿命を延ばす「オーバーホール事業」において、目標84台に対して**112台（目標比133%）**という素晴らしい実績を残してくれたことです。

これは、サプライチェーン全体での大幅なCO2削減（**約679kg-CO2**）に直結する「本業を通じた環境貢献」です。また、廃棄物・コピー用紙・梱包材の削減も目標をクリアしました。最も誇るべきは、数字以上の「現場の知恵」と、長年にわたり愚直にパーツ交換や清掃、動作確認を継続してきた担当者の「技能」です。この「技能と環境」の融合を、当社の未来のスタンダードにしていきます。

次年度の取組指示

「脱炭素投資への着手と、強みである環境貢献事業の拡大」

2026年以降、社会の脱炭素（GX）への要求はさらに厳しさを増します。次期環境方針として以下の3点を全社に指示します。

① 抜本的なエネルギー対策への移行検討

運用面での節電に加え、余剰在庫から蛍光灯を削減する考え方へ移行検討。

② オーバーホール事業のさらなる拡大

今期の成功要因を分析し、「製品の延命化＝温室効果ガス削減効果」の価値訴求を強化。

③ 優れたノウハウの全社共有

第二工場のインフラ管理や本社の環境営業ノウハウを水平展開し、一丸で推進。

2026年5月27日
株式会社ヒノックス
代表取締役社長 依田 享

10. 環境経営レポートの公表と活用

当社ホームページ

2005年度より、当社ホームページにて公表掲載中

URL: <http://www.hinox.co.jp/ecoaction/>

エコアクション21中央事務局

エコアクション21中央事務局ホームページの環境レポート

URL: <http://www.ea21.jp/list/pdfn/0000404.pdf>